

## 徳島県神山町～人口5000人の小さな町はなぜ進化し続けるのか？

## 【1】 創造的過疎 (Creative Depopulation) とは？

過疎化の現状を受け入れ、数ではなく **過疎の中身を改善**する。外部から若者やクリエイティブな人材の誘致を図り、**人口構成の健全化**を図るとともに、ICTインフラ等を活用し、中山間にあっても **多様な働き方を実現できるビジネスの場**としての価値を高めることによって、農林漁業のみに頼らない、バランスのとれた、持続可能な地域を目指す。

## 【2】 地方や過疎地における課題

**雇用がない！ 仕事がない！**

(※ 若者に魅力ある仕事の欠如)

- ① 移住者を呼び込めない。
- ② 若者が古里へ帰って来られない。
- ③ 地域を担う後継人材が育たない。

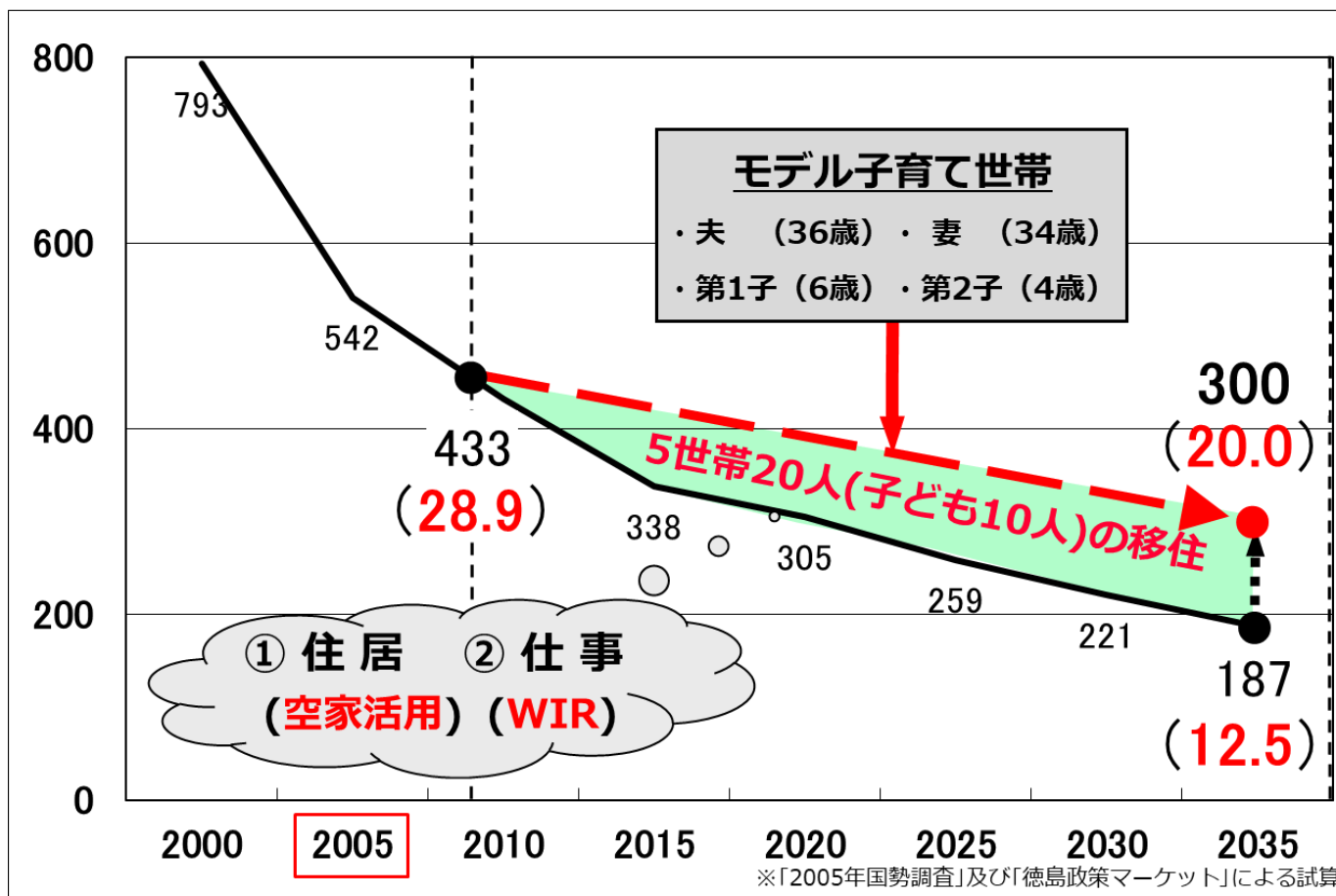


## 【3】 神山プロジェクト

- ① **ワーク・イン・レジデンス** (町の将来にとって必要な働き手や起業者の誘致)
  - ・ ビストロ、カフェ、パン屋、ピザ屋、靴屋、惣菜店、ゲストハウス、コーヒー焙煎所…などが開業
  - ・ 商店街への展開によって、今までに類を見ない中山間における商店街モデルの誕生
- ② **サテライトオフィス** (IT、映像、デザインなど働く場所を選ばない企業の誘致)
  - ・ 2020年10月現在、14社がサテライトオフィス設置、本社移転、新会社設立
  - ・ 合計40数名新規雇用創出。エンジニアやプログラマーだけでなく、営業部門(オンライン)も展開
- ③ **神山まるごと高専(仮称)** (起業家精神を持つテック人材を育成する次世代型私立高専設立)
  - ・ 2023年4月開校予定・1学年40人(計200人)・全寮制
  - ・ 自ら課題を発見し、モノをつくる力で解決する。そして社会に変化を生み出すことができる人材の創出

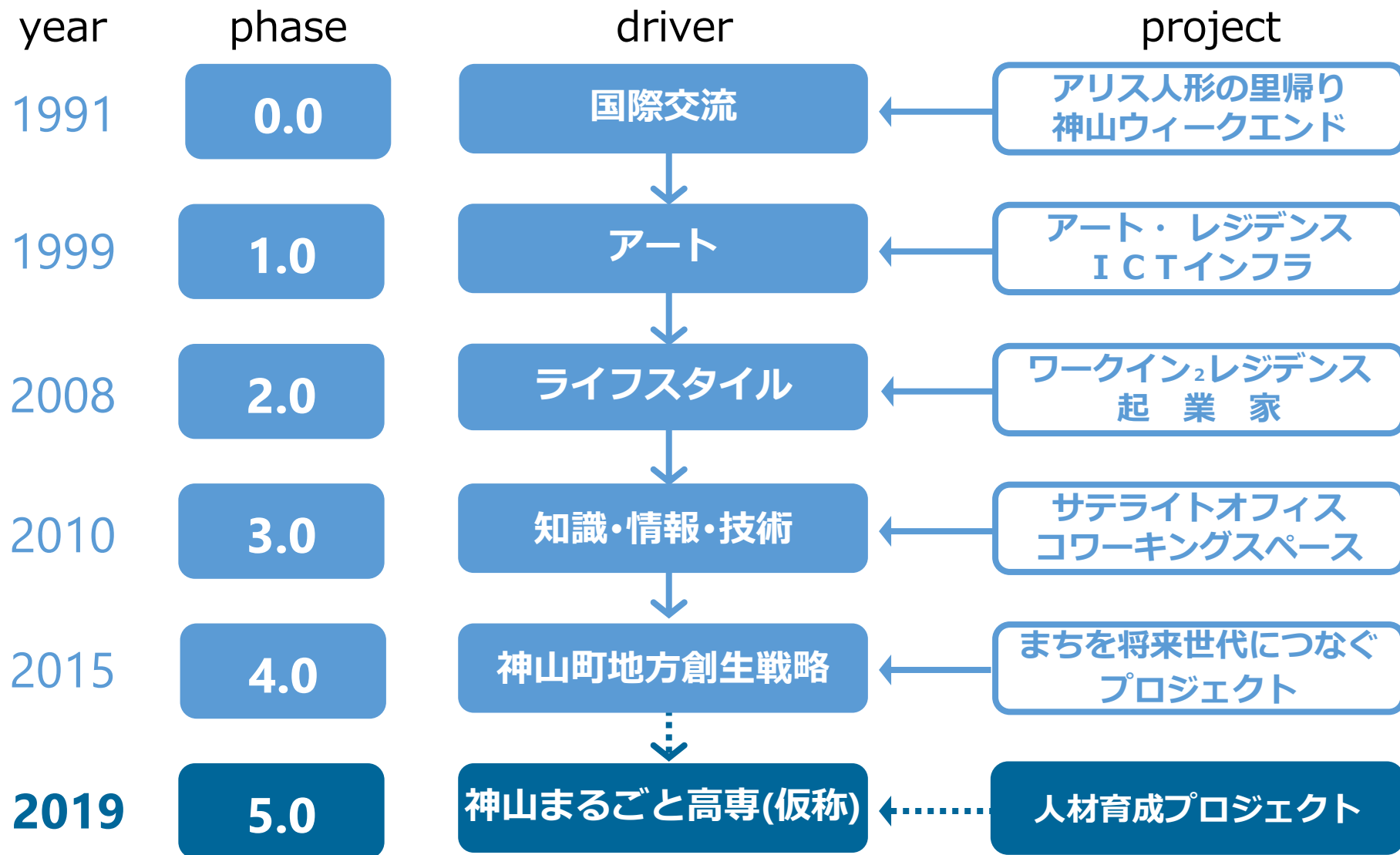
# 創造的過疎の基本的な考え方と神山町の移住施策 (2008年)

日本創成会議は2014年、20-39歳の女性人口に着目し、消滅可能性都市を予想。グリーンバレーではその6年前の2008年より、**年少人口**に焦点を当て、「**2035年に1学年20人(年少人口300人)の生徒数を確保するには、毎年何世帯の受け入れが必要になるか?**」を推計し、データに基づいた移住策を実践。



2005年国勢調査に基づく神山町における年少人口(0-14歳)の将来推計

# 神山町における地域活性化のフェーズ



30年におよぶ「クリエイティブ人材」の集積が変化の源泉



# 【神山0.0】「青い目の人形」の米国への里帰り(1991年)

1927年、米国から日本に贈られた友好親善人形（12,739体）の内の一体。  
神山町神領小学校に保管されていた「アリス・ジョンストン」が所持していた  
パスポートの出身地情報から贈り主を探し出し、64年ぶりの里帰りを実現。



アリス・ジョンストン 人形



パスポート



贈り主



青い目の人形の里帰りという成功体験を共有した地域住民が身の回りから少しずつ変え始めた！

# 神山プロジェクトの起源は『徳島県総合計画』

1991年3月 アリス里帰り推進委員会

1992年3月 神山町国際交流協会

**徳島県総合計画** (1997年2月)

・とくしま国際文化村構想

➔ **住民目線の国際文化村を県に提案**



**国際文化村委員会** (1997年4月)



1998年

**アドプト・プログラム**  
(道路清掃ボランティア事業)



1999年

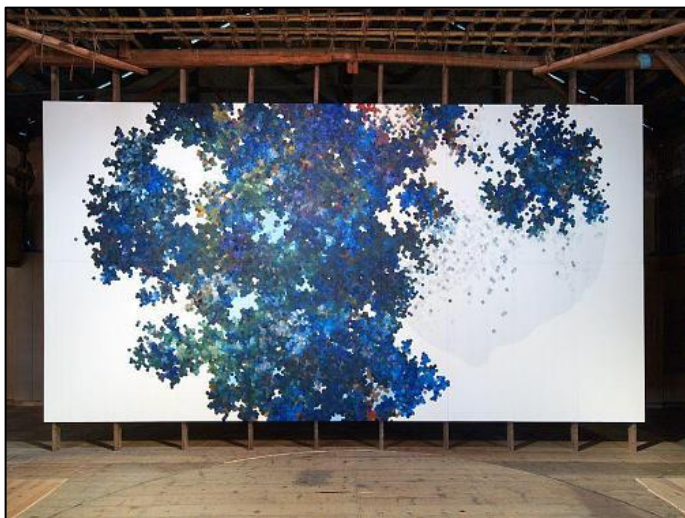
**国際芸術家村**  
(神山AIR)

2004年12月 N P O 法人グリーンバレー

・ **神山町移住支援センター委託 (2007年10月)**



# 【神山1.0】 神山アーティスト・イン・レジデンス (1999年)



2020年までの22年間に、23か国から80名近い芸術家が滞在。  
作品が残されていくとともに、**2002年頃より芸術家の移住**が始まる

# 【神山2.0】 ウェブサイト「イン神山」の構築（2008年）



光ファイバー網の整備  
(2005年9月)



自費滞在を希望する芸術家  
向けに宿泊・アトリエ等の  
サービスを有償提供



ビジネス展開



情報発信 (ウェブサイト)

「アートプログラム紹介」・「神山町への移住支援」サイト  
<プランニング・ディレクション>トム・ヴィンセント氏



移住需要の顕在化



# ワーク・イン・レジデンス（2008年）

町の将来にとって、必要と思われる  
「働き手」「起業者」を逆指名



パン屋さん  
開業しませんか？



デザイナーさん  
いらっしやい！

事前に職種を特定することにより、町のデザインが可能に！

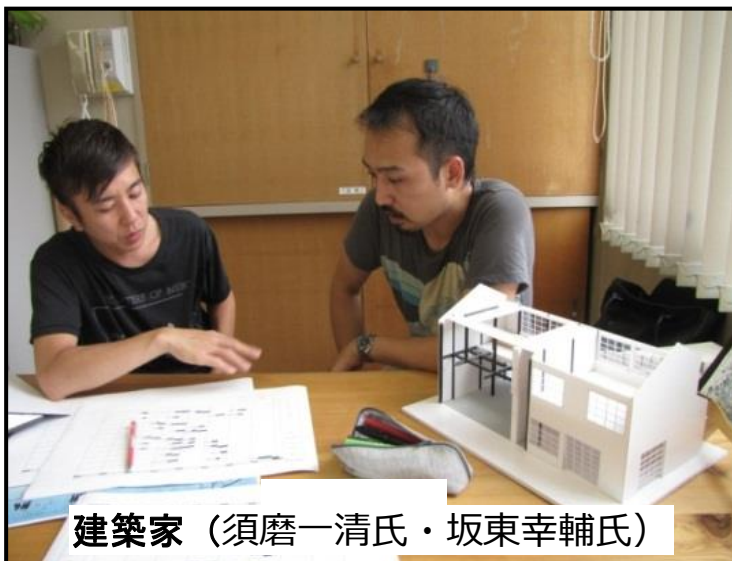


# オフィス・イン・神山（空家改修プロジェクト・2010年）



**クリエイター**がお試し滞在できるオフィス兼住居の整備改修  
(神山でも**展開可能な職種を探る** ➡ クリエイター・イン・レジデンス)

# 【神山3.0】 サテライトオフィスの誕生と展開（2010年）



建築家（須磨一清氏・坂東幸輔氏）



デザイナー（トム・ヴィンセント氏）



ITベンチャー起業家（寺田親弘氏）



Sansan 神山ラボ

「アイデア」ではなく、神山に集まる人の「思い」を一緒に紡ぐ中で**自生**



# 代表的なサテライトオフィス



Sansan (東京都渋谷区) : クラウド名刺管理の国内最大手



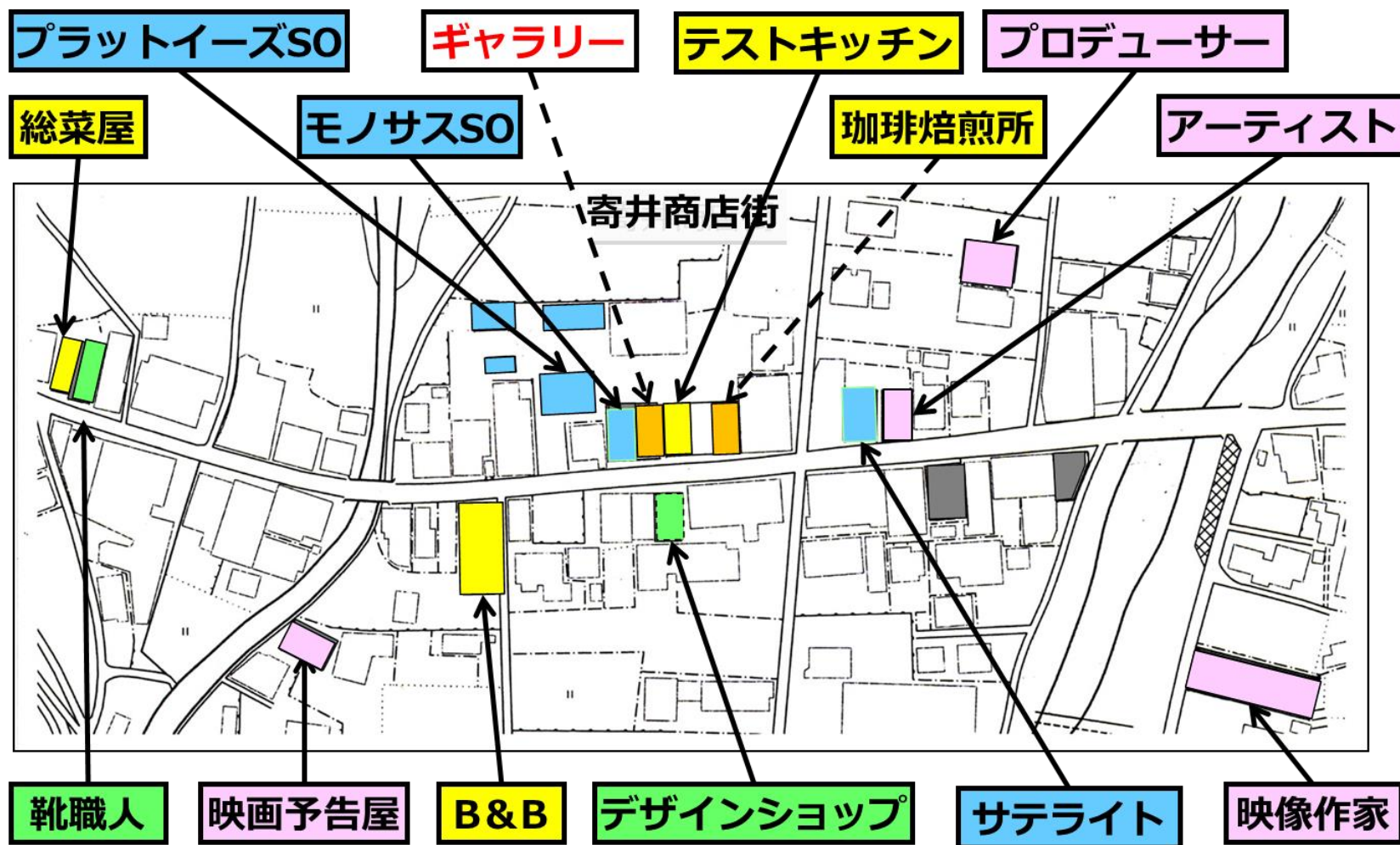
プラットイーズ (東京都渋谷区) : テレビの番組情報等の配信



# 「ワーク・イン・レジデンス」によるサービス業の展開



# ワーク・イン・レジデンスを活用した商店街再生



オフィス・レストラン・商店・職人・クリエイター等の集積

➡ 「**新たな人の流れ**」・「**地域内経済循環**」の創出



# コワーキングスペース (2013年)&デジタル工房 (2016年)

## 神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス



15社26名が定期不定期でサテライトオフィス等として利用



# クリエイティブな人材の集積





# サテライトオフィス企業が異業種に進出、新たなビジネスを展開



宿泊施設WEEK神山



神山しずくプロジェクト



フードハブプロジェクト



神山ビールプロジェクト

# 【神山4.0】 神山町地方創生総合戦略事業 (2015年)

## 「まちを将来世代につなぐプロジェクト」

2015年7月から約3か月、ワーキンググループ会議開催

**BAUシナリオ** (成行き未来)



「人が移り住んでくる、還ってくる、留まることを選択する背景」

⇒ 地域に「可能性が感じられる状況」が不可欠



# 神山町創生戦略 ① 「Food Hub Project」

## 「かま屋・かまパン」開業 (2017年3月)

**モノサス**が主体となった農業生産法人が運営  
地域に貢献する**社会性のある農業**を実践し、  
**小さな食の循環システム**をつくる取り組み。

**地産地食** "Farm Local, Eat Local."

「住民が食べて支えて、神山の農業を持続させる」

**シェフ・イン・レジデンス**



## 神山町創生戦略 ②「子育て世代向け集合住宅プロジェクト」



8棟 (家族18世帯・単身者6人入居可) + 共用施設**コモンハウス**  
町内の大工さんが町産材で建築。熱源は**木質バイオマスボイラー**



# 神山町創生戦略③「町民向け町内バスツアー」(2016年10月～)



「まちの血行を良くする」



2021年10月現在、計62回実施・参加町民数797名 (15.0%)



# スタートアップ・イン・レジデンス（2020年2月～3月）



選りすぐった海外ベンチャー数社を招聘し、**滞在しながら独自のビジネスプランをブラッシュアップ**するとともに、神山進出企業や徳島県内企業・大学との連携を模索する機会も創出する「**神山アクセラレータプログラム**」



# 【神山5.0】「神山まるごと高専(仮称)」プロジェクト (2019年)

**2023年4月開校予定・学生数200名 (5年制)・全寮制**  
**「テクノロジー x デザインで、人間の未来を変える学校」**  
**(工業大学 + 美術大学 + 経営学部)**

**育てる学生像：モノをつくる力で、コトを起こす人**

企業版ふるさと納税を活用した初の学校新設事例

設置申請中のため、名称・内容等は変更となる可能性があります。

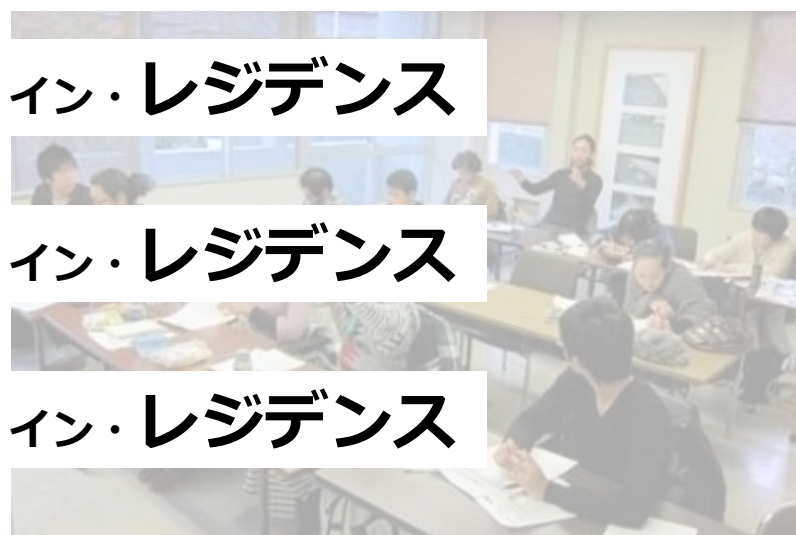
# レジデンス事業による事業創造人材ネットワーク構築



**アーティスト**・イン・レジデンス

**ワーク**・イン・レジデンス

**クリエイター**・イン・レジデンス



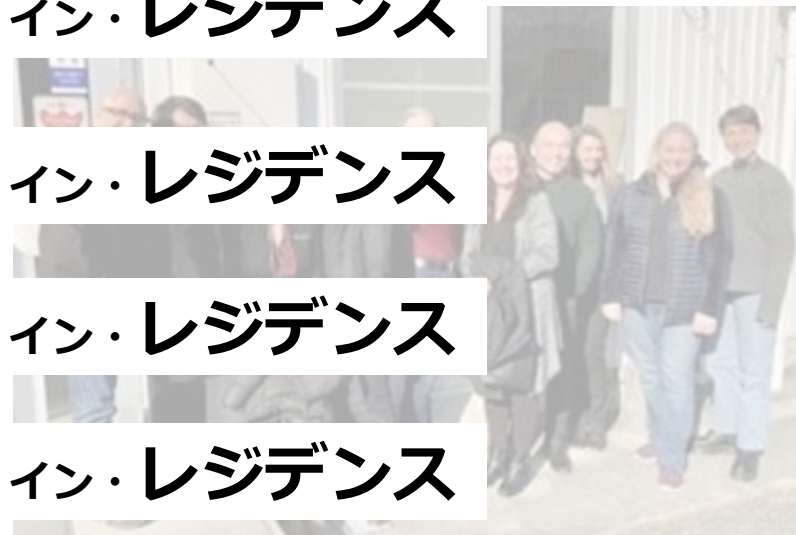
**트레이ニー**・イン・レジデンス



**シェフ**・イン・レジデンス

**スタートアップ**・イン・レジデンス

**ホース**・イン・レジデンス

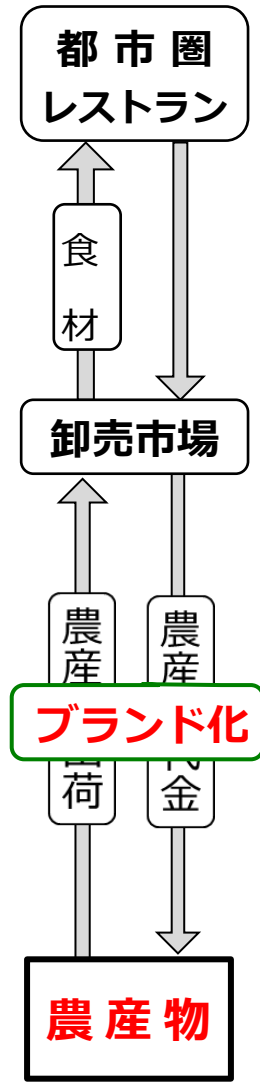
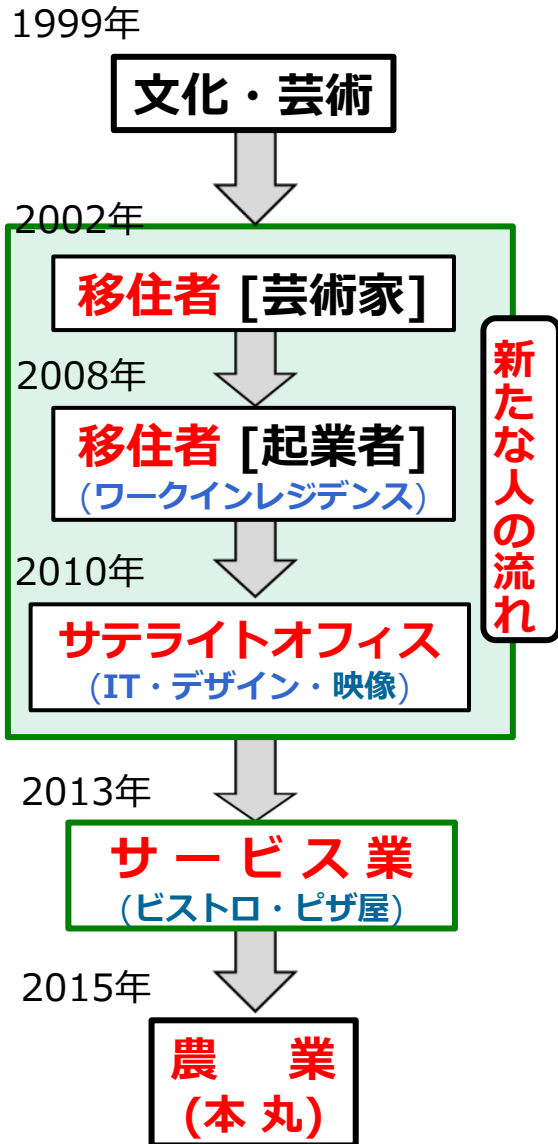


**レジデンス** → **多様な人材** → **関係人口** → **変化・進化**

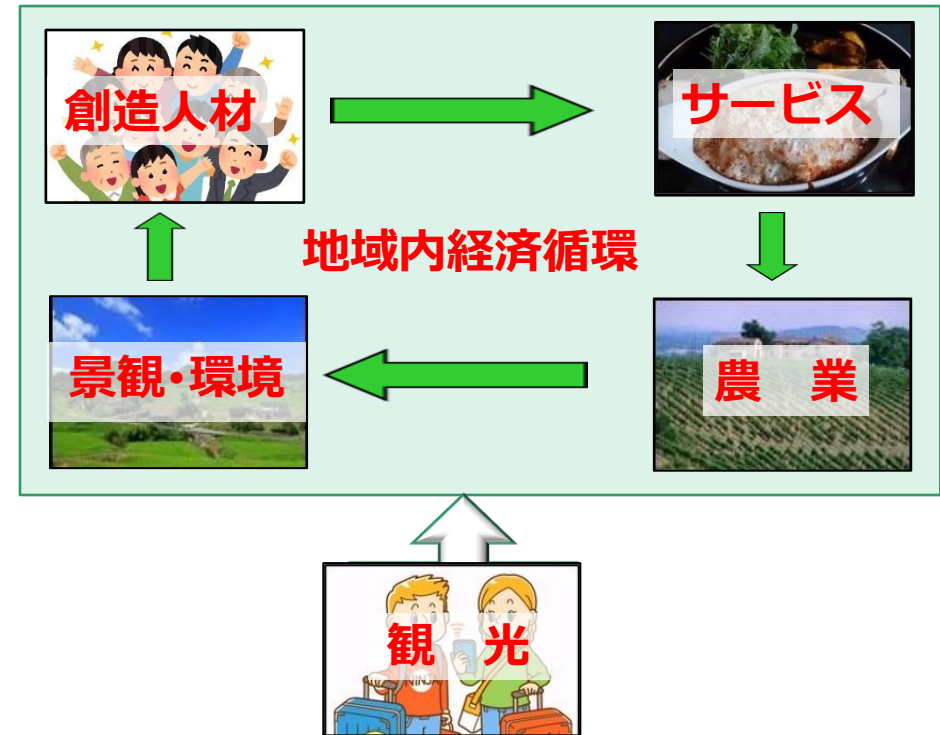


# 人材集積と地域内経済循環による地方創生モデル

## ● 従来型



## ● 次世代型



働き方や働く場所の自由度を高め、地方に「高度な職」を呼び込むとともに、新たな「サービス」を生み出し、観光等との連携によって域外から適度な外貨を取り込み、地域内経済の循環による自律的發展を図る